

令和4年度
教育課程研究集会

小・中学校 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間における
「主体的・対話的で深い学び」の実現
に向けた授業改善について

奈良県教育委員会事務局
学ぶ力はぐくみ課
堺 隆宏

「主体的な学び」の視点

学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び

課題設定

振り返り

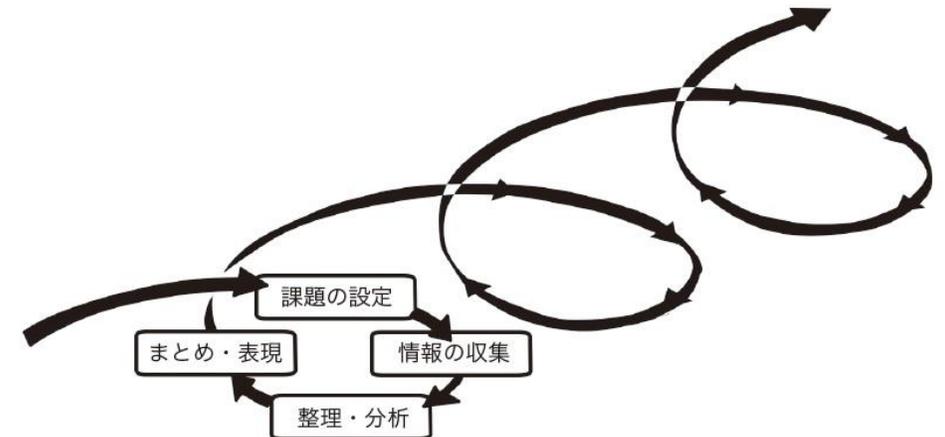
「対話的な学び」の視点

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び

異なる多様な他者と力を合わせて課題の解決に向かう

「深い学び」の視点

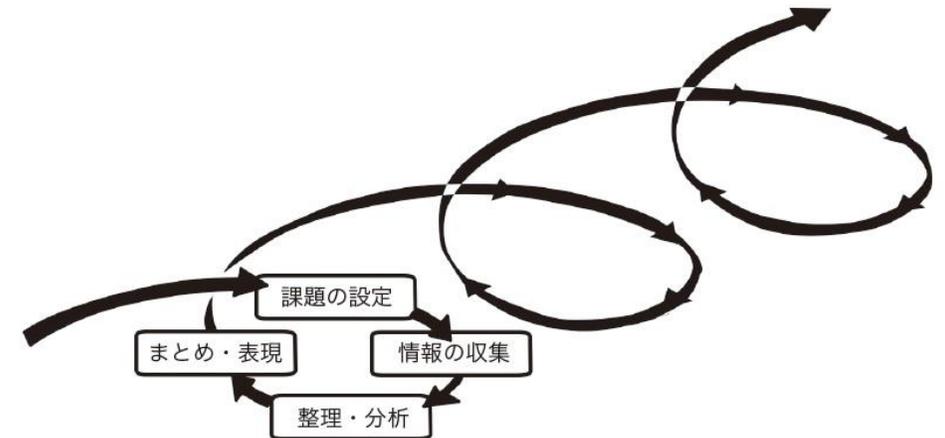
探究的な学習の過程を一層重視し、
これまで以上に学習過程の質的向上を目指す



探究的な学習の指導のポイント

学習過程を探究的にすること

- ①課題の設定 : 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②情報の収集 : 必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③整理・分析 : 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④まとめ・表現 : 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する



考えるための技法について

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2

(2)探究的な学習の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際、例えば、**比較する、分類する、関連付けるなどの考えるための技法**が活用されるようにすること。

考えるための技法について

考えるための技法とは

考える際に必要になる情報の処理方法を、例えば「比較する」、「分類する」、「関連付ける」など、技法のように様々な場面で具体的に使えるようにするもの

考えるための技法の例

順序付ける 比較する 分類する 関連付ける
多面的に見る・多角的に見る 理由付ける
見通す 具体化する 抽象化する 構造化する

考えるための技法について

考えるための技法を活用することの意義

- ①「整理・分析」の過程における思考力、判断力、表現力等を育てる。
- ②協働的な学習を充実させる。
- ③各教科等と総合的な学習の時間の学習を相互に往還する。

考えるための技法を意識的に使えるようにするために

可視化

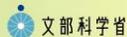
思考ツール

思考ツールを活用すること自体が目的化しないように!

今、求められる力を高める 総合的な学習の時間の展開

未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた
探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現

令和3年3月

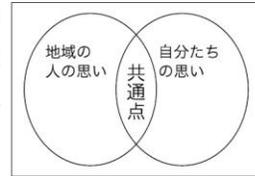


事例⑥ ベン図を用いて整理・分析する

収集した情報の共通点と相違点の両方を明らかにすることができます。整理する視点を設定して情報を振り分けることで、対象の特徴が明確になったり、よさや問題点が明らかになります。

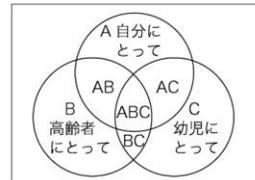
実践例 共通点・相違点を明らかにするベン図

- 1 情報を付せんやカードに書き出す。
- 2 異なる立場を示したベン図を用意する。
- 3 共通点や相違点を考えながらベン図に位置付ける。



実践例 視点を設けて共通の要因を含むものを見いだすベン図

- 1 調べたことを付せんやカードに書き出す。
- 2 整理する視点を決める。
- 3 視点の数に合ったベン図を用意する。
- 4 視点に沿って位置付ける。



【ポイント】

●比較の視点の設定

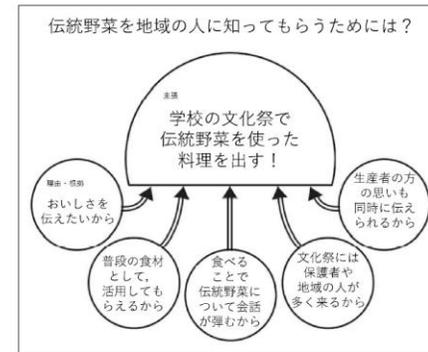
- ・目的に応じて、例えば「年齢」、「国籍」、「性別」、「地域」、「立場」など、異なる視点を定めて整理する。
- ・課題解決に向けた提案をよりよいものに高めたい場合は、「A実現可能か、B緊急を要するか、C持続可能か」などの視点を定めて整理する。

事例⑩ クラゲチャートを用いて整理・分析する

頭の部分に主張を書き込み、なぜそう言えるのか根拠を足の部分に記入します。収集した情報や経験の中から、主張の根拠や出来事の原因を探して整理し、理由付けることができます。

実践例 伝統野菜を広めよう

- 1 課題やテーマに沿って主張したいことや意見を頭の部分に書く。
- 2 収集した情報の中から、主張や考えの理由・根拠になる情報を探して、足の部分に書き出す。



【ポイント】

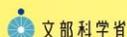
●状況に応じた柔軟な活用

- ・足を全部埋める必要はない。また、必要であれば足を書き足すようにする。
- ・クラゲの頭と足がつながりにくい場合は、足の横に説明を書くことよい。
- 教科等との関連
 - ・国語科の情報の扱い方や社会科の食料生産、家庭科の衣食住の生活に関する学習など。

今、求められる力を高める 総合的な学習の時間の展開

未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた
探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現

令和4年3月



事例⑨ XチャートやYチャートで整理・分析する

対象について多様な視点で整理することで、収集した情報を多角的に分析することにつながります。

実践例 避難生活で自分にできることを考えよう (Yチャート)



【ポイント】

●分析の視点の設定

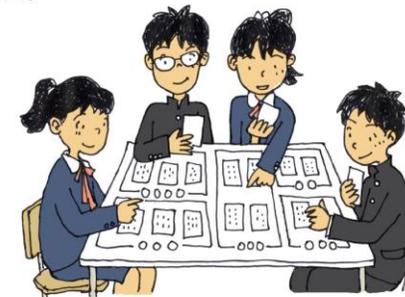
- ・Yチャートは3つの視点、Xチャートは4つの視点を設定できる。視点の数にあったチャートを選ぶ。
- ・検討対象に応じて、分析の視点を適切に定める。教師が設定することもあれば、生徒に設定させることも考えられる。
- 学級全体での共有
 - ・学級全体で話し合いをしながら進めるために、黒板やデジタルホワイトボード等に構造的に書き記すこともできる。

事例⑥ KJ法的な手法を用いて整理・分析する

収集した情報を比べ、似たもの同士を同じ類型に入れてタイトル付けを行い、他のものと区別します。また、新たに入手した情報はこれまでの枠組みで類型化することで、多量の情報を効率よく処理していくことができます。

実践例 バス利用者の減少と高齢化問題の整理・分析

- 1 何のために整理・分析するのか、目的を確認する。「町の特徴や利用者の状況から、なぜ、バスの利用者が減少しているのかを考えよう。」
- 2 調査してわかったことや体験して感じたことをカードに書き出す。(1枚のカードに1つの事項)。
- 3 内容が同じカードのまとまりを作り、タイトルを付ける。
- 4 まとまりの関係性が見いだされた場合は、矢印や線でつなぎ、関係性を明示する。



【ポイント】

●話し合いを通しての分類

- ・分類していく際、カードの内容について話し合いながら情報を共有し、理解して分類する。
- まとまり間の関係を明示
 - ・まとまり間の関係を検討する際には線や矢印で結びながら全体を整理する。
- 教科等との関連
 - ・例えば、国語科の情報の扱い方に関する事項の学習など。

探究的な学習の指導のポイント

他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

① 多様な情報を活用して協働的に学ぶ

多様な情報を収集することで、情報交換しながら学級全体で考えたり話し合ったりして、課題が明確になっていく

② 異なる視点から考え協働的に学ぶ

異なる視点を出し合い、検討していくことで、事象に対する認識が深まり、学習活動を更に探究的な学習へと高めていく

③ 力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

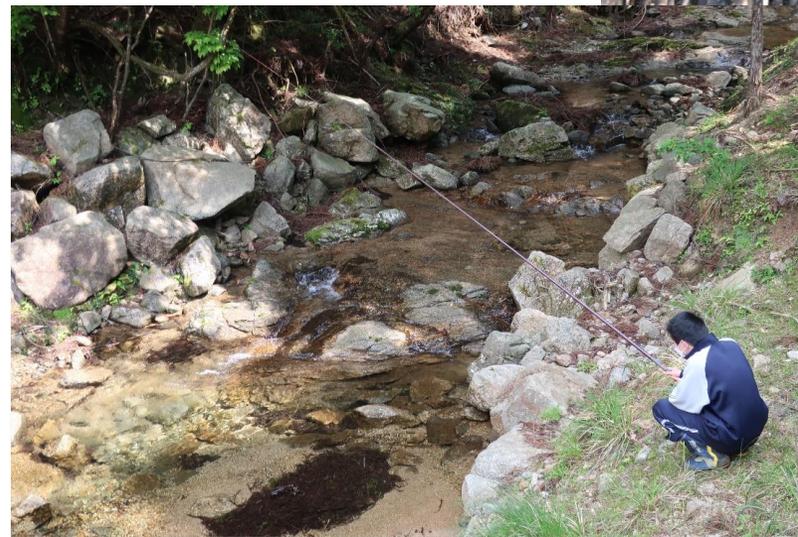
一人でできなかったことを、仲間がいることで成し遂げられることを実感する

④ 主体的かつ協働的に学ぶ

問題を自分のこととして受け止め、よりよく解決するために自分が取り組もうとする主体性がなければ、協働は成り立たない

中学校における実践例

御杖村立御杖中学校:村の歴史や自然についての体験活動や調査活動



児童生徒にとって身近な地域に関わることを
探究課題として設定

郷土学習の手引

～再発見！私たちの郷土奈良の魅力～



奈良県に暮らす児童生徒に、郷土奈良の自然や歴史文化資源などを生かした学習を通して、郷土に対する誇りと愛情を深め、郷土をよりよくしていこうとする態度を育むため、「郷土学習の手引」を作成しました。児童生徒や学校、地域の実態を踏まえ、各学校の特色を生かしながら、教科等横断的な視点から各教科等の授業にこの手引を活用していただけるようお願いします。

平成 30 年 3 月

奈良県教育委員会事務局学校教育課

学習プラン例

小学校第 6 学年 総合的な学習の時間 ③地域のよさを受け継ぎ広めよう
一東小かたるたを通して～

学習のねらい

- 「田原本町ふるさとかるた」からの学びを「校区のかたるたづくり」に生かす探究的な学習を通して、歴史、文化、観光、自然、作成者の願いなど多面的な視点から掲載対象の価値が分かるとともに、それらを総合して町のよさに対する概念を形成する。
- 「田原本町ふるさとかるた」の内容を人物、時代、祭祀などで分類したり、総合的にまとめ直したりしてかるたの選定条件を考察するとともに、獲得した学び方や知見を生かし独自の校区かたるたを作成し、全校かたるた大会を開催する。
- 「田原本町ふるさとかるた」から「校区のかたるたづくり」に至る一連の探究活動に主体的・協働的に取り組むことを通じて、校区のよさを受け継ぎ広めていこうとする態度や校区を愛する心を育む。

郷土の資源について

田原本町では、郷土学習の一環として「田原本町ふるさとかるた」を町内の小学生に配布している。
40枚の札は、遺跡や歴史上の人物にゆかりのある寺社、今に伝わる祭祀や天然記念物の大樹、また町民の学びや憩いの場である施設や公園など多面的な視点から選定され、歴史と文化のふるさと「田原本」を実感することができる。また、掲載対象の調査・分析から選定条件を考察したり、かるたの作成者と対話したりすることを通して、対象の価値に気付くとともに、「町のよさを受け継いでほしい」という作成者の願いに共感しながら地域への愛着を深めることができる。また、その学びを「校区かたるた」の作成につなげ、在校生に発信することで思いを受け継いでいきたい。

学習指導要領上の位置付け

第 5 章 第 2 3 (5) 地域の人々の暮らし、伝統や文化など地域や学校の特徴に応じた課題

学習の流れ

1. 田原本町ふるさとかるたの特徴を調べる。 7 時間
2. 小学校区のかたるたをつくる。(本時 6・7/17) 17 時間
3. 全校かたるた大会をする。 4 時間
4. 学習を振り返る。 2 時間

展開例 (本時 13・14/30)

	学習活動	指導上の留意点 (※評価規準)	備考
導入	○前時までの活動(一人一人がかたるたにしたい校区内の対象について調べ、関連する情報ごとにまとめ、図に整理する)を振り返り、本時のねらいを確認する。		
	調べて分かったことを発表し、友達の意見も参考にして読み札と絵札にする内容を決定しよう。		
展開	○かたるたにしたい対象について調べた内容及びその中から特に読み札や絵札にしたい内容を一人一人発表する。	・対象に関するいくつかの内容から実際に読み札や絵札にする内容を自己決定するために意見交流することを確認する。 ・発表内容がより伝わるように、発表者には対象について関連する情報ごとに整理した図(整理図)を電子黒板に投影させ発表させる。 ・発表内容を分かりやすくするために、発表者の整理図をグループに配布し確認させる。	PC、電子黒板 各自の整理図
	○発表内容を基にグループで意見交流する。	・多面的に考察できるように、各グループの意見は付箋にまとめ、各自の整理図に貼付させる。 ・意見内容の違いがわかるように付箋の色を変える。 (賛成意見…ピンク色、追加意見…水色 新たな情報…緑色)	各自の整理図
	○読み札や絵札にする内容を決定する。	・最も受け継ぎたい内容について、他グループからの意見も踏まえ自己決定するよう確認するとともに、ワークシートへの記入により自分の考えを整理させる。 ※他者の意見も踏まえ、多面的に考察しながら札の内容を吟味し選定している。	ワークシート
まとめ	○本時の学習課題について振り返る。	・下記事項の観点から本時の達成状況を振り返らせる。 ・できたことや頑張ったこと ・難しかったこと ・参考となった友達の見解	振り返りシート

郷土学習の手引

<http://www.pref.nara.jp/49481.htm>

郷土学習の手引リーフレット

<http://www.pref.nara.jp/secure/194803/kyoudori.pdf>